

第6学年 社会科学習指導案

指導者 小学校

1 単元名

～条約改正への道～

陸奥宗光・小村寿太郎が拓いた新しい日本

こんな子どもたちだから

- アンケートでは、子どもたちの67%が「陸奥宗光・小村寿太郎の業績や条約改正について知っている」と答えている。これまでの歴史学習を通して、歴史上の人物やその時代の様子などへの関心が高くなってきている。**(意欲・関心・態度)**
- 学習問題に対する自分の考えの根拠をもとに聴き合ったり、事実とその時代背景を関連付けながら考えをつくって発表することができる。**(思考・判断・表現)**
- 教科書や各種資料(年表・地図)等から自分の考えに必要な資料を収集し、表現物にまとめることができる。**(観察・資料活用の技能)**
- 前単元では、黒船の来航から明治維新までの時代の流れ、明治新政府が廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めてきたことなどを理解し、社会事象から時代背景を考えることができるようになってきた。**(知識・理解)**

2 指導観

こんな教材を使って

○単元のねらい

本単元は、陸奥宗光・小村寿太郎の働きを中心に「大日本帝国憲法の発布、日清・日露戦争の戦争、条約改正、科学の発展などについて調べ、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことが分かること」をねらいとしている。

○学習指導要領への意義

本単元では、大日本帝国憲法の発布、帝国議会、日清・日露戦争での勝利や産業の発達など日本の国力の充実があって日本の国際的地位が向上したことに加えて、陸奥宗光や小村寿太郎ら人物の外交の努力があって不平等条約の改正に成功したことをつかんでいく。

条約改正交渉に53年間もの長きにわたり多くの人物が苦労しながら解決のために取り組んできたことを学ぶことは、人々の工夫や努力が今日の私たちの生活と深くかかわっていることを理解する上で価値高いと考える。

○テーマへの意義

学習問題に対する3つのキーワード〔外交の努力〕、〔政治の仕組み〕、〔戦争・産業〕を図式化し、考えを構造的に表現できるようにした。聴き合いで多様な価値観に触れることで、より付加・修正された考えの変容を感じることができる。また、当時の社会背景と人物の働きにより条約改正が実現した価値をとらえ、社会的な見方・考え方を身に付けることができる。

こんな手立てで(方法)

○新しい事実と出会う段階では

前単元の復習から不平等条約の問題点について触れ、年表や資料を見て不平等条約がどのようにして改正されたの

かを考えて学習問題をつくる。陸奥宗光・小村寿太郎

○課題を明確にする段階では

学習問題に対する予想を考えマップに書く。年表から、学習問題の答えの視点になる3つのキーワード(外交、政治、戦争・産業)をもとに歴史事象をふり分け、自分自身の課題を明確にする。

○さぐる・まとめる段階では

自分の考えを表現物にまとめ、考えの根拠になる資料を作成しながら学習問題に対する自分の考えを立てる。中間交流の中で考えを整理し、より確かなものにできるようにする。

○考えを確かにする段階では

異質グループによる聴き合い活動を仕組み、異なる価値観をもつ友だちの考えに触れ、学習問題に対する考えをとらえ直すことで共通点・合意点に迫ることができるようにする。

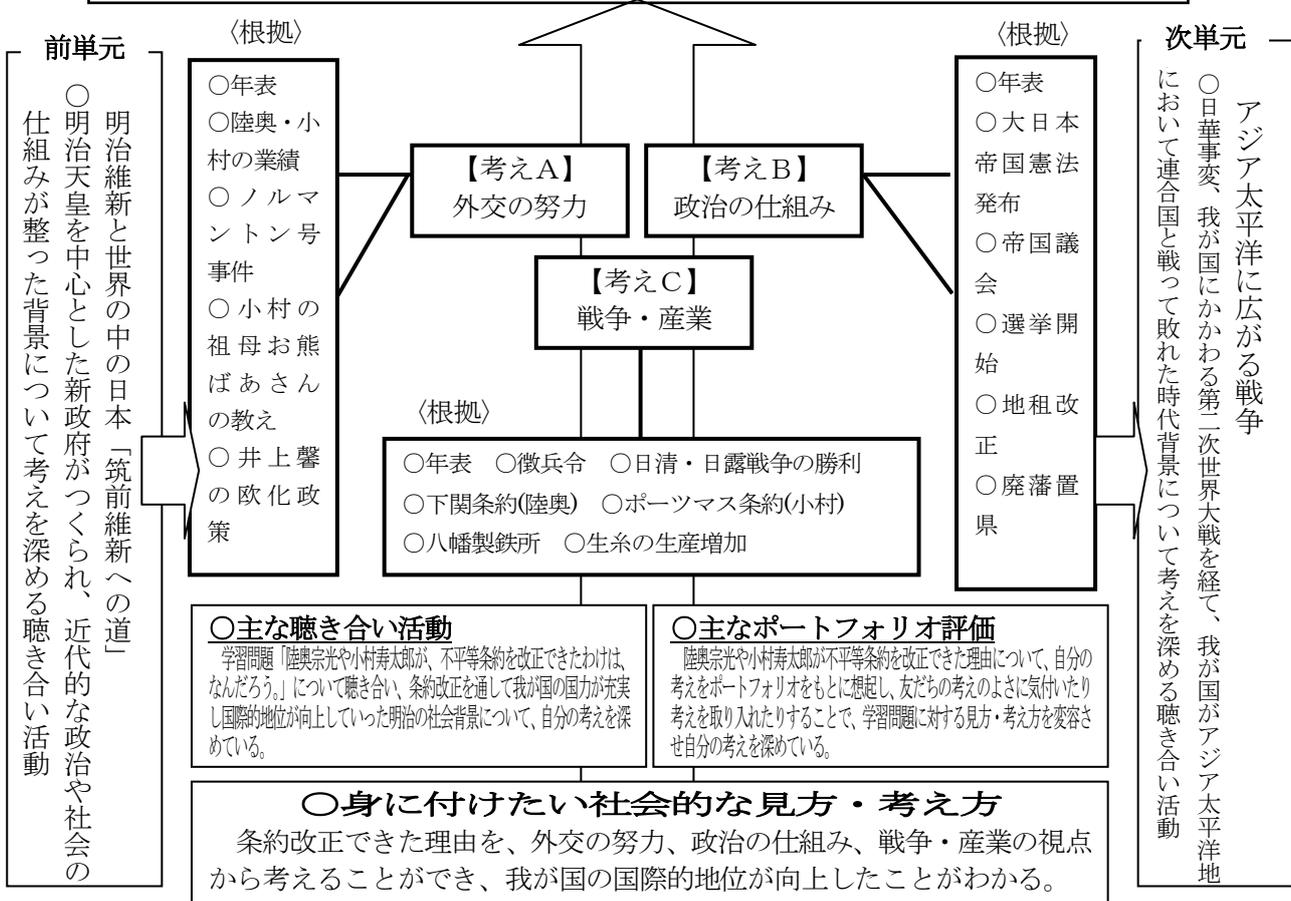
また、自分の考えを図式化して発表することで考えの変容を実感できるようにする。さらにポートフォリオも活用して自分の考えの変容を振り返り、条約改正による我が国の国力の充実と国際的地位の向上をより多面的な視点で結びつけることができるようにする。

目指す子どもの姿

- ◎ ノルマントン号事件などをきっかけとして不平等条約の改正を目指した明治時代の日本の社会背景や外国との関係の変化に関心をもち、自ら調べようとするができる。**(関心・意欲・態度)**
- ◎ 社会事象と時代背景を関連付けて考え、自分の考えを図式化して表現して聴き合うことで、自分の考えの変容を振り返り、考えを再構成できる。**(思考・判断・表現)**
- ◎ 年表や地図資料・絵図などから陸奥宗光・小村寿太郎などの努力や政府の動き、条約改正の歩みなどを調べて表現物にまとめることができる。**(観察・資料活用の技能)**
- ◎ 聴き合い活動を通して大日本帝国憲法の発布、日清・日露戦争、産業の発展・外交の努力があって条約改正が実現し、我が国の国力の充実と国際的地位の向上につながったことを理解できる。**(知識・理解)**

3 単元カリキュラム

社会科部テーマ
社会的な見方・考え方の習得・活用を通して考える力を育てる社会科学習



考えAの資料

条約改正に関する年表

井上馨の欧化政策

陸奥・小村の業績

考えBの資料

条約改正に関する年表

大日本帝国憲法発布

第1回帝国議会

考えCの資料

条約改正に関する年表

日清・日露戦争

重工業の発達

4 指導計画 (計10時間)

段階	主な学習活動と内容	評価規準と子どもの姿 ◇=評価規準 ・=意識	指導上の留意点と評価方法 ○=留意点 ◆=評価方法	配時
新しい事実と出会う	<p>1 前単元を振り返り、江戸時代末期に幕府が結んだ外国との条約が不平等なものだったことを想起する。</p> <p>(1) 不平等条約(関税自主権・治外法権)を資料として示し、どんな部分が日本にとって不平等だったのかを話し合う。</p> <p>(2) 不平等条約によって起こった事件の資料を示し、その問題点について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物価高騰、輸入品による国内産業への圧迫 ・ノルマントン号事件 <p>(3) 不平等条約について当時の国民の気持ちを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不平等条約に反対する国民感情 ・不平等条約が原因で起こった事件の影響 	<p style="text-align: center;">【支援の9つの観点】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 問いかけ・・・焦点化したり、課題解決の方向を促したりする。 ② 賞賛・・・その子の考えや活動をほめる。 ③ 価値・・・対象や場を価値付ける。 ④ 整理・・・思考の流れを補足する。 ⑤ 安心・・・教師も一緒に考える。思いを聴く。 ⑥ 指示・・・考えの方向を示す。 ⑦ 余裕・・・時間、場所をゆとりととる。 ⑧ 物的援助・・・追究活動に必要なものを与える。 ⑨ 板書の構成・・・視覚的に思考の道筋を整理し振り返りにも活用する。 <p>◇ノルマントン号事件と不平等な条約に疑問をもち、日本と外国の関係について調べようとしている。 (関心・意欲・態度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノルマントン号事件の背景は一体何だろう。 ・当時の日本人の心情はどうだったのだろう。 ・不平等条約がある限り、安心して生活できない。 ・物価が上がってしまって生活が苦しくなった。 	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">ノルマントン号事件</p> <p>○不平等条約の影響下で起こった事件に関する資料を実際に掲示し、当時の国民の気持ちにより共感できるように工夫する。</p> <p style="text-align: right;">《支援①⑧》</p> <p>◆学習プリント・発言分析</p>	1
	<p>2 資料から学習問題をつくる。</p> <p>(1) 不成功に終わった岩倉使節団の不平等条約改正交渉の様子を示す資料と、後に不平等条約改正に成功した陸奥、小村の交渉の様子を示す資料を示し、改正交渉を始めたころと改正に成功したころの日本では何が変わったのを考える。</p> <p>(2) 不平等条約改正交渉開始から53年、この間に何が起こったのか考え、疑問に思ったことから学習問題をつくる。</p>	<p>◇不調に終わった岩倉使節団が巡った交渉先を示す地図や、ほとんどの国で相手にされなかった事実と、不平等条約改正に成功した陸奥や小村の資料を比べて、条約改正交渉開始から53年でどんなことが起きたのか、自分なりの疑問を3つ以上書くことができている。 (思考・判断・表現)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・53年間で何が変わったのだろう。 ・日本に対するほかの国の見方が変わったのかな。 	<p>○条約の改正までに、長い年月がかかっていることに目を向けさせる。</p> <p>○今までに不平等条約を改正できなかった背景や不平等条約が幕末に結ばれた経緯を年表で押させさせる。</p> <p>○いくつかの視点を出させながら学習問題を作らせ</p> <p style="text-align: right;">《支援④⑧》</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">交流活動①</p> <ul style="list-style-type: none"> ●全体 ・なぜ条約改正をできたのかを考え、学習問題をつくるための聴き合い活動 </div>	1
<p>【学習問題】 陸奥宗光や小村寿太郎が、不平等条約を改正できたわけは、なんだろう。</p>		<p style="text-align: center;">交流活動①</p> <ul style="list-style-type: none"> ●全体 ・なぜ条約改正をできたのかを考え、学習問題をつくるための聴き合い活動 		

<p>課題を明確にする</p>	<p>(3) 年表から条約改正までのあゆみを知り、自分なりの追究の視点をもつ。</p> <p>3 年表作りをしながら、自分なりの課題を明確にする。</p> <p>(1) 条約改正に関係のある歴史事象をカードに書く。</p> <p>(2) カードを操作し、3つの視点に分類する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 外交の努力に関すること 政治の仕組みに関すること 戦争の勝利や産業の発達に関すること <p>(3) 自分なりの課題を明確にもち学習の見通しを立てる。</p>	<p>◇条約改正を達成できた理由について、当時の社会背景から予想し、考えマップに書いている。 (技能)</p> <p>◇学習問題に対する予想の根拠になる歴史事象を年表の中から探すことができる。 (思考・判断・表現)</p> <p>◇課題を追究していく際の調べる内容・方法を把握している。 (技能)</p>	<p>○条約改正までの歩みが分かる年表を掲示する。</p> <p>《④⑧》</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>交流活動②</p> <p>●全体</p> <ul style="list-style-type: none"> 相違点をもとに課題を明らかにする聴き合い活動 </div> <p>◆考えマップ</p> <p>○カードに書いている歴史事象がなぜ、条約改正につながると考えたのか、根拠とのつながりも発表させる。</p> <p>《支援①》</p>	<p>1</p> <p>1</p> <p>1</p>
<p>さぐる・まとめる</p>	<p>4 学習計画に沿って調べ、自分の考えを表現物にまとめ、その考えに合った資料を作成する。</p> <p>5 表現物をもとに、中間交流をする。</p> <p>(1) 聴き合い活動をし、不十分な点を補う。</p> <p>(2) 表現物の整理をし、自分の考えをまとめる。</p>	<p>◇3つのキーワードの根拠を立て、優先順位を付けることができる。 (思考・判断・表現)</p> <p>◇相違点に気を付けて友だちと聴き合い、考えを付加・修正している。 (思考・判断・表現)</p> <p>◇キーワード同士の社会事象の根底にある人々の願いから共通点を見つけている。 (思考・判断・表現)</p>	<p>◆年表カード</p> <p>○自分の考えを立証するための証拠(資料)探しをさせる。</p> <p>《支援③》</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>交流活動③</p> <p>●同質グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料の解釈等の違いをもとに、不平等条約を改正できた理由について、考えを整理する聴き合い活動 </div> <p>◆考えマップ</p>	<p>1</p> <p>1</p> <p>1</p>
<p>考えを確かにする</p>	<p>6 陸奥宗光と小村寿太郎が不平等条約を改正できたわけについて全体交流をする。</p> <p>(1) 聴き合い活動をし、友達の考えのよさから共通点、合意点を見つける。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>学習問題</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>【共通点】</p> <p>「外国と対等な立場の国にしたい」という、人々の思いがあった。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>【合意点】</p> <p>不平等条約の改正に成功できたのは、政治の仕組みを整えたり、戦争に勝利したりして、国力が次第に充実して日本の国際的地位が向上したことや世界の動きを考えながら陸奥宗光や小村寿太郎らが粘り強い交渉を続けたからである</p> </div> <p>(2) 聴き合い活動をもとに、自分の考えを再構成する。</p> <p>7 単元全体を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 作文「条約改正への道」を書く。 	<p>◇3つのキーワードそれぞれの視点から、条約改正をできたわけを理解することができる。 (知識・理解)</p> <p>◇3つのキーワードそれぞれの視点から、条約改正をできたわけを理解することができる。 (知識・理解)</p> <p>◇学習したことを生かして、作文を書くことができる。 (知識・理解)</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>交流活動④</p> <p>●全体・異質グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> 共通点を整理し不平等条約を改正できた理由について、考えを深め再構成する聴き合い活動 </div> <p>○発表の順序、意図的指名を考慮し、構造的な聴き合い活動をさせる。《支援①②》</p> <p>○板書から考えが重なり合うところについて考えさせる。《支援⑨》</p> <p>○板書やポートフォリオを振り返ることで、学習問題に対する自分の考えを再構成できるようにする。</p> <p>《支援⑤⑦》</p> <p>◆自己評価カード分析</p>	<p>1</p> <p>1</p> <p>1</p>

5 本時

陸奥宗光と小村寿太郎が不平等条約を改正できた理由について、表現物をもとに聴き合う場面

平成22年 10月 日() 校時 6年 組教室(9/10)

6 本時の目標

- 聴き合い活動を通して、自分と相手の考えを比べ友だちの考えのよさを取り入れ、陸奥宗光と小村寿太郎が不平等条約を改正できた理由について、多面的な視点で考えを深めることができる。
(思考・判断・表現)
- 大日本帝国憲法の発布、帝国議会、日清・日露戦争、産業の発達や陸奥宗光・小村寿太郎ら人物の外交の努力や工夫があって不平等条約の改正が実現したことと、それにより我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことを理解する。
(知識・理解)

7 本時の授業仮説

学習問題に対して3つのキーワードを設定し、その3つを図式化して発表することで、より構造化した考えを伝えることができる。全体聴き合い・グループ聴き合いを行った後で考えの再構成を行い、再び自分の考えを図式化することで聴き合いを経て付加・修正された自分の考えの変容を知ることができ、明治の社会背景や人物の努力や工夫により条約改正が実現したことをより深く理解することができるであろう。

8 本時指導の考え方

○本時のねらい

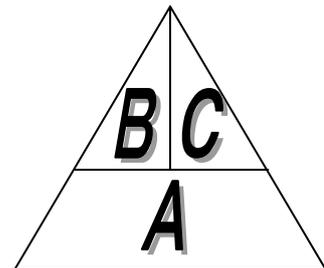
本時は、学習問題の答えについて、大日本帝国憲法の発布、帝国議会、日清・日露戦争、産業の発達や陸奥宗光・小村寿太郎ら人物の努力や工夫があって不平等条約の改正が実現したことと、それにより我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことを理解することをねらいとしている。子どもたちは、学習問題「陸奥宗光や小村寿太郎が不平等条約を改正できたわけは、何だろう」について、考えの根拠を資料から探りながら追究してきている。学習問題の答えを導くためのキーワード〔A：外交の努力〕、〔B：政治の仕組み〕、〔C：戦争・産業〕3つを子どもたちと一緒に考え、それぞれの考えの根拠となる具体的な資料を表現物にまとめ中間交流で聴き合い、考えを整理している。

○交流活動の工夫について

学習問題に対して〔A：外交の努力〕、〔B：政治の仕組み〕、〔C：戦争・産業〕というキーワードを与え、3つのキーワードから自分の考えを組み立てさせていく。表現物には3つのキーワードを優先順位を決めて並べ、キーワードごとの自分の考えの根拠を示す。次にA、B、Cのキーワードの関連の仕方を考えて図式化する。

全体聴き合いで異なる考えの友だちの考えに触れた後、3つのキーワードの共通点を考え、その共通点を踏まえてグループの聴き合い活動を行う。様々な価値観に立って聴き合うことで、不平等条約改正のためには外交の努力、政治の仕組み、戦争の勝利(産業発展)が不可欠だったことを実感させ、合意点を導く。最後に合意点をもとに自分の考えの変容を図式化して表現させ、再構成した考えを自己評価カードに記入させる。

考えの図式(例)



○評価活動の工夫について

前時学習までに考えを蓄積したポートフォリオを、次の3点で活用する。①全体での聴き合い活動における関係資料②グループでの聴き合い活動における発表補助資料③自己評価時における考えの変容を振り返るための比較資料である。このようにポートフォリオ評価を行うことで、友だちの考えのよさに気付いたり、自分の考えが深まったことをとらえたりできるようにし、学習の達成感を高めたい。

・規準に満たない子への支援

共通点が見付からない子どもには、3つのキーワードに介在する人々の思いを想像させたり、具体的な資料と結びつけて考えさせる。

9 準備

考えマップ、表現物(フリップ)、ポートフォリオ、資料(年表、写真、絵図等)、自己評価カード